

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600202		
法人名	有限会社 幸慈愛福祉事業振興会		
事業所名	グループホームはまなす石狩 (はまなすの石狩)		
所在地	石狩市花川北6条1丁目68番地		
自己評価作成日	平成 27年 1月 21日	評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとに花見、さくらんぼ狩り、ぶどう狩りを楽しみ、果物を十分に楽しんだ後は、現地で、職員手作りの料理に舌鼓を打ちながら季節感を感じのんびりとした時間を過ごしています。
 開設当初から行っている今年度の一泊旅行は、定山溪温泉にでかけました。入浴、夕食バイキングの後は、ツートン青木のものまねショーを觀賞され、近くで聴く歌声の素晴らしさに皆さん釘づけになっていました。翌日は、お天気にも恵まれ円山動物園で昼食をかねながら動物を見て、ふれあって職員共々楽しい時間を過ごしました。また、今年度は町内会の合同避難訓練に参加したり、消防署立会いのもと町内会の方にも避難訓練に参加をお願いし、避難した入居者さんの見守り等の協力をして頂きました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0177600202-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27年 2月 19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【重度化、看取り支援体制の充実】
 重度化や看取りの丁寧な説明と同意書や希望書を取り交わし、看取り時の医師との緊密な連携や代表及び管理者を中心とする充実した支援体制に家族も安心しています。
 【地域における認知症啓蒙活動】
 開設当初から地域へ認知症についての情報提供や相談受け入れ体制を整備し、キャラバンメイト活動など関連事業に取り組んで認知症理解のための啓蒙活動に努めています。
 【災害対策強化と地域との連携】
 住民参加の定期避難訓練以外に年数回の自主訓練と日々の点検、停電用の蓄電器設備の設置、町内の合同避難訓練参加など災害対策に地域と共に取り組んでいます。
 【変化のある暮らしの支援】
 高介護度者の多いホームですが、車椅子者を含めて周辺や公園の散歩、車両による果物狩りや花見、年1回の宿泊旅行などホームに籠もりがちにならない暮らしを支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に何カ所か掲示し職員がいつでも見られるようにしている。また、朝の申し送り時に確認しあるようにしている。	地域の中で利用者のその人らしい暮らしを支援する理念をホーム内各所に掲示し、日常業務や申し送り時などに代表や管理者からのアドバイスで職員は理念を確認し、利用者へのサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、町内会の行事に積極的に参加し交流を図っている。花壇作り、町内クリーン作戦、町内会避難訓練に参加し交流に努めている。	町内会の盆踊りや清掃、市の福祉祭りなどの諸行事に参加協力しています。さらに、介護関連の相談受け入れや住民によるホーム周辺除雪作業、自然災害に備えた町内合同避難訓練参加など地域との交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター活動で認知症とはどういうものかを知ってもらうよう発信したり、ステップアップ講座実習参加者を受け入れたりしている。まちかど介護相談所として介護相談に気軽に来ただけけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度行われる運営推進会議で、ご家族や町内会長・民生委員、支援センターの方々の意見を聞き、サービスの向上につなげている。入居者のご家族全員に案内を出し、推進会議への参加を呼び掛けている。	複数の家族や町内関係者、民生委員が参加して定期的に運営推進会議を開催しています。会議では、運営状況報告や意見交換を行い、参加者からの行事スケジュール等各種情報を職員のローテーションに反映させるなど会議内容を運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者、福祉課担当者とは常に連携を取りながら協力関係をきずいている。又、グループホームの見学についても、常に受け入れられている。	市庁舎がホームに隣接しているため、代表や管理者は随時、担当窓口を訪れて相談や情報交換を行い、市主催の認知症サポーター養成講座のステップアップ講習の会場を引き受けるなど市との密接な協力体制が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止推進研修会に職員に交代で研修会に参加してもらい、勉強会で感想を発表してもらい、職員全体に理解してもらうよう努めている。又日々の業務の中で、ユニット責任者や管理者が都度指導している。	職員は、身体拘束をしないケアについての知識を外部研修受講や内部勉強会で共有しています。管理者や主任は業務を通して職員に関連事項のアドバイスを行い、身体拘束をしないケアを実践しています。日中の玄関施錠は無く、職員が見守りながら支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、ケア会議、職員会議等でふれている。又、実際に制度を利用されている入居者様がいらっしゃる、連携も図っている。ケア会議に参加し勉強させてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時や解約時に利用者やご家族様に十分に説明し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口となり、その都度対応している。またホーム内には意見箱を設けるなど、家族様の意見には職員全員が傾聴する様に努めている。	家族は頻繁にホームを訪れ、一泊旅行やホーム行事へ積極的に参加しており、職員と顔なじみであり、自由に話し合うなど家族と職員の親密な交流が進んでいます。家族からの要望等は率直に耳を傾け、内部で検討して運営に反映させています。	家族との親密な交流で利用者の様子も伝えていますが、利用者のホームにおける暮らしぶりの写真や文章を記載したお便りは家族にとって思い出や記念として大変喜ばれますので、ホーム便り発行の検討を期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談を行ったり、職員会議後の雑談や親睦会の中での会話などから、意見や提案を聞くように努めている。	勤務歴の長い職員が多く、代表者や管理者と職員は日常的に自由に話し合いをしています。さらに、申し送りや会議等でも意見や提案を行う機会があり、ホーム運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入したり職務環境の改善や、職員のやりがいなどの向上のため、職員とのコミュニケーション常に心掛けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には出来るだけ多く職員を参加させて勉強してもらい社内研修で発表してもらおう。社内研修は年数回程度。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩グループホーム連絡会の勉強会、交流会に参加したり、地域ケア会議にも参加させてもらっている。また、実践者研修には出来るだけ交代で職員が参加し、他施設の職員との交流の場の一つとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や利用者やご家族との面談の中で、困っている事や要望を聞き、ケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築くために、どんな些細なことにも耳を傾け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人からの情報を基にカンファレンスを開き、必要としている支援見極めをし、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを基に、出来る事、出来ない事を見極めて自分がその立場だったら、どうしてもらいたいのか、を常に考え支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等との信頼関係を築くために、来訪の際や電話にて本人の近況を報告したり、受診・往診後Drから指示がある事については、必ずご家族へ報告するように努めている。 また終末ケア時は家族、Drとの調整役となり連絡を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人・知人からの手紙、電話などのやり取りが気軽に出来るように支援している。また、看取りの時は24時間どんなことにも対応し支援に努めている。	家族からの情報や利用者の話を聞きながら馴染みの場所への外出希望があれば付き添い、家族や友人への手紙など連絡のお手伝いをしています。知り合いの訪問者には気兼ねなくゆっくりと過ごして頂くよう配慮して馴染み関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活をともにする仲間として意識しあえるよう、生活リハビリやゲームをしたり、談笑の場をもうけたりと、一人一人が孤立しないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も管理者、居室担当が窓口になり、お見舞いに行ったり、その先のフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向に配慮した個別ケアに努め、意向が伺えない方は、その人らしさを第一にケアの方向性を考え支援する。	家族からの情報やケアプランの記録を参考にし、日常のケア経験から思いや意向の把握に努めていますが、把握困難な時は表情や仕草を見分けながら利用者に合わせた支援を行うようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境などを家族の協力を得て把握し、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、その日の気分や状態、体調を考慮し、日課の調整を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスのさいに更新の介護計画を話し合い作成している。また、家族への説明の時に意見を聞き、介護計画に反映している。	日々のケース記録を参考にカンファレンスでケアプランの内容を検討し、通常は6ヵ月毎に定期見直しをしています。プラン見直しが必要な際は、家族や主治医とも相談し、利用者にとって最善のプランとなるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、職員間で情報を共有している。また、申し送りノートや申し送り表の活用、朝夕の申し送り時は常に情報交換に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いろんな情報をキャッチしサービスの多機能化に取り組んでいる。 (お墓参り、受診時の付き添い、買物、他)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、町内会の行事は進んで参加させてもらい楽しんでいる。町内会の子供盆踊りに参加し車椅子でも踊りの輪に入れてもらって楽しみ、いつまでも最後まで参加。他、防災訓練、春秋クリーン作戦や花壇作りなど参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族などの希望を大切に主治医の継続や変更などの個別の対応をしている。また、診察の同行、情報提供に努め関係作りを行っている。	月2回の訪問診療がありますが、病気に関する相談や看取り診療について随時、医師や看護師の熱心な協力体制があるため家族にとっても安心感があります。通院には職員が付き添って病状等を把握しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回定期来設の他、必要時24時間の連携で、意見やアドバイスを頂いている。また終末ケア時には、医師と連携し毎日来設してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の紹介による緊急時の入院先との連絡、情報を行っている。また、入退院時の説明時には同席し、その後の健康管理につなげている。入院時、退院時には必ず付き添う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した時についてホームのあり方を説明し理解してもらおう。また、早い段階で家族との話し合いを持ちながら医療機関とも相談して方向を定める。三者で十分に話し合う。	入居時に重度化の指針説明と同意書を頂き、利用者の状態に応じて看取りに関する説明と希望書を頂いています。看取りの際には、代表と管理者が中心となって充実した支援体制で取り組んでおり、家族からの信頼もあり、看取り件数も多いホームです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社会福祉施設等防火救命実務研修会に参加し、救命救急の研修を受けたり、勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を消防署の指示のもと行っている。町内の方の協力をいただき、誘導等もやっていただいている。三町内会合同の避難訓練にも参加させてもらいました。	住民の協力を得て年2回の定期避難訓練と自然災害を想定した町内合同避難訓練参加で地域との災害に対する連携体制が築かれています。さらに、ホーム独自の自主訓練と日々の点検を行い、停電用の蓄電器設備も設置予定して災害対策に取り組んでいます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが人生の大先輩であることから一人一人の人格を尊重しケアする様に心掛けている。	職員は、ケアサービス実施時に利用者の人格尊重と誇りを損ねないよう十分配慮しており、管理者や主任も職員に声かけの仕方など日常業務を通してのアドバイスなどで支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に自分らしく暮らしていけるよう押しつけのケアはしない。また、重度になっていく利用者の方については表情、動きをよく見極めし支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアの押しつけはせず、その日の一人一人の体調や精神面を把握し、その日をどのように過ごしていただくかを相談し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体ではあるが、季節感や外気温などに注意し、同じものにならないようさりげない支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割として、食事の準備、後片付け、食器拭き、収納をお願いしてその人の日課として職員と一緒にやっている。	各ユニットの調理専門職員による食事は、美味しいと好評で利用者も満足しています。一部利用者は、簡単な食事関連の作業を手伝い、利用者と職員と一緒に食事をして和やかに過ごしています。季節行事等には特別献立で変化のある食事を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量、水分量を職員全体で把握し、気になる人は、チェック表に記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを促したり介助したりして、必ず行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用の方も定期的にトイレ誘導したりと、出来るだけトイレでの排泄を促し支援している。	利用者のトイレ排泄を支援するため排泄チェック表を参考にして定時誘導や様子を観察しながら声かけ誘導をしています。下着類も利用者の身体状況に合わせて紙又は布パンツへの変更も支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫（おから料理を特に工夫してもらっている）、朝の水分、乳製品、運動と出来るだけの支援を心掛けている。 ※Dr指示にて下剤を使用する事もある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に配慮し、出来るだけゆったりした気分で入浴していただけるように支援している。（曜日は設定している） 又、終末ケアの方には、曜日は関係なく、体調を見て入浴してもらっている。	入浴日は週2日間実施していますが、利用者の体調を見ながら清拭や全身シャワー設備利用もあります。入浴時には職員が話しかけの工夫や入浴剤使用など楽しく過ごせるよう配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度などに常に注意したり、寝具の調整をおこなっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容は職員全員が把握できるようにケース記録に綴じ、自由に見る事が出来る。また薬の変更時には、必ず連絡帳に記入し確認してもらう。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技、生活歴、仕事、趣味、嗜好に配慮し日々の生活の中に生かしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に外出に取り組んでいる。季節感のある行事（さくらんぼ狩り、イチゴ狩り、ぶどう狩り、紅葉をを楽しみながらドライブなど）をおこなっている。（買い物、お墓参り、食事など）	介護度が高く、車椅子利用者も多いホームですが、季候の良い時期には周辺散歩やホームガーデン見学を楽しんでいます。また、車両で果物狩りや花見、郊外の公園などにも行き、年に一度の家族も同伴する一泊旅行を楽しむなどホームに籠もりがちにならない暮らしを支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はほとんどいないが、買物の際は、自分で支払う事を楽しんでもらう工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話を利用してもらい、家族や知人等への連絡は、いつでも取れる体制を整えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体はほとんどがバリアフリーであり、生活範囲内は手すりを設置してあり移動しやすくなっている。また、「我が家から見える夕日は最高です」その他、入居者の作品や職員が写した写真を貼ったりしている。	旧男子寮を住みやすさを配慮して改造した二階建てホームは、階段の昇降機の設置やバリアフリー構造等で利用者の行動を容易にしています。1階にはサンルームがあって多目的に利用されており、居間兼食堂には手作り作品や季節の飾り、鉢植えがあって居心地の良い共有空間となっており、利用者は日中をここでのんびりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルを多く配置し、個々、好きなどことで過ごせるよう配慮している。サンルームは自由に利用できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、好きなポスターを貼られたり、好きな物を置いたり工夫している。	居室にはロッカーと上置棚が設置されて衣類や物品が整理し易い室内です。利用者は、馴染みの調度品を自由に持ち込み、壁面には家族の写真や絵画などを飾って居心地の良い雰囲気の中で暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内での移動はしやすく工夫しており、一人一人を見守りその人らしい生活を送ってもらっている。		